資料７

諮問第 46 号

雪彦峰山県立自然公園　公園計画の変更

資料目次

１　雪彦峰山県立自然公園の概要

①指定経緯　・・・１

②公園区域　・・・１

③公園の特質　・・・２

④公園計画　・・・２

２　公園計画変更に係る審議内容　・・・４

３　峰山高原の自然環境の現況と特性　・・・５

４　公園計画変更に係る調査内容

（１）環境影響調査の概要　・・・６

①　地形・地質の状況　・・・７

②　植物の状況　・・・８

③　動物の状況　・・・10

④　景観の状況　・・・12

（２）社会状況調査の概要

①土地の所有、利用の現況　・・・14

②人口　・・・14

③地域指定、権利制限の現況　・・・14

④国内スキーの現況　・・・16

⑤県内のスキー場の現況　・・・18

（３）利用の現況

①利用資源の現況　・・・19

②気象条件　・・・21

５　神河町スキー場計画（神河町作成）

①計画の概要　・・・22

②スキー場整備の効果　・・・23

③経営方針　・・・23

④収支予測　・・・24

（資料）

峰山高原自然環境の現況（早春・春期調査結果より）　・・・25

雪彦峰山県立自然公園　公園計画書　・・・26

１　雪彦峰山県立自然公園の概要

①指定経緯

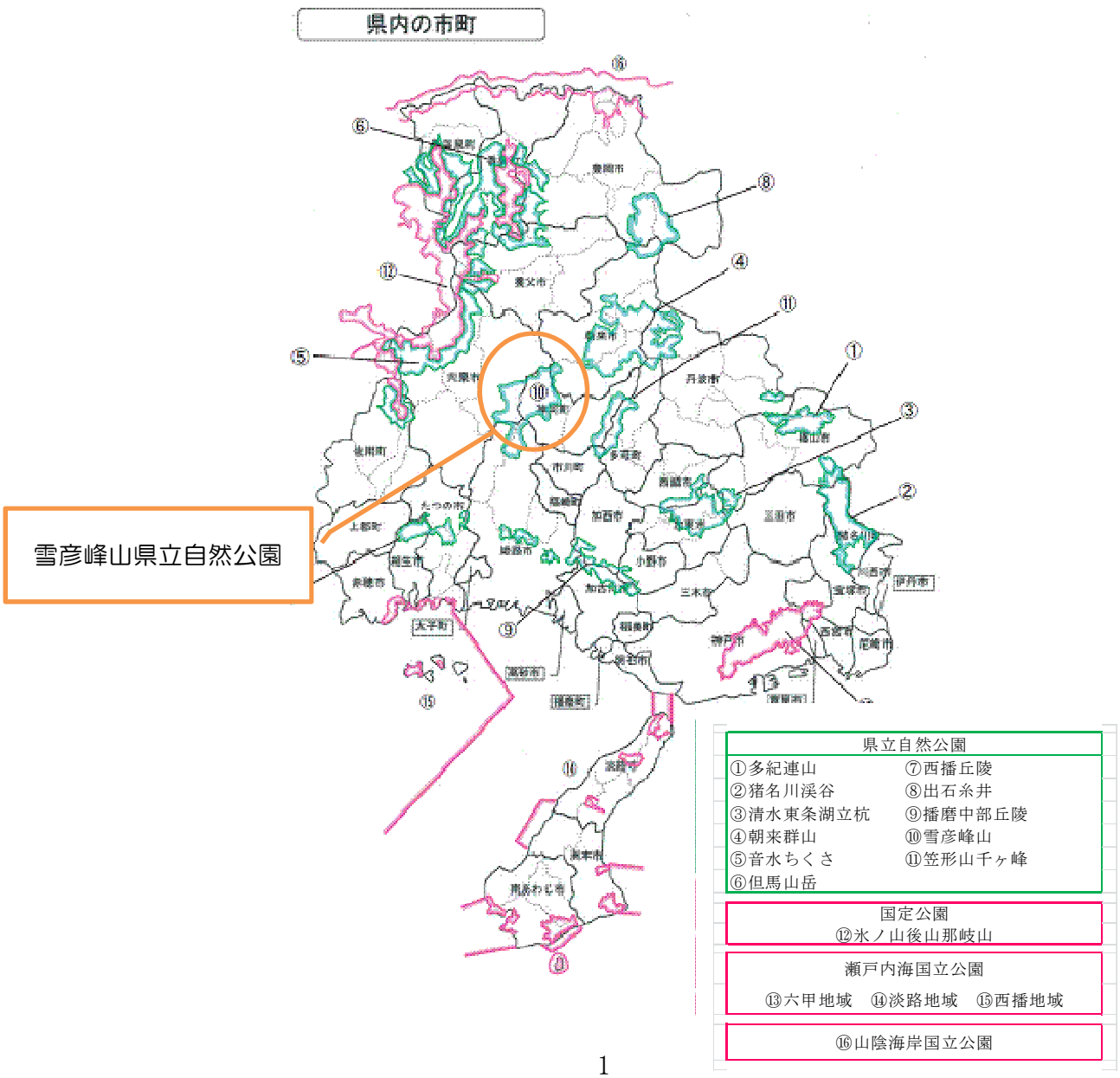
雪彦峰山県立自然公園は、その名称のとおり雪彦山と峰山高原を主とする山岳・高原地域を公園区域として、昭和 38 年５月に指定された。

その後、平成６年７月には、公園区域外にも自然公園に値する貴重な自然景観があることから、公園区域を拡大するとともに、特別地域等地種区分の見直しを行っている。

当初指定：昭和 38 年５月 21 日（第１回変更：平成６年７月５日）

②公園区域

市町名	面積（ha）	著名な風景地
姫路市	1,866	雪彦山、鹿ヶ壺
宍粟市	3,460	福知渓谷
朝来市	275	段ヶ峰
神河町	4,543	峰山高原、砥峰高原
合計	10,144	



③公園の特質

雪彦峰山県立自然公園は、兵庫県のほぼ中央に位置し、雪彦山を代表する山岳景観、峰山高原やその北東に連なる砥峰高原などの高原景観、福知渓谷などの渓谷景観が代表的景観である。

本地域の植生は、大部分スギ、ヒノキの植林地やコナラやクリの二次林で占められ、ススキ草原は、主になだらかな起伏の斜面に発達しており、学術的にも自然景観要素としても貴重な山地草原である。

雪彦山

砥峰高原

福知渓谷

④公園計画

（１）保護規制計画

山岳、高原、渓谷からなる自然景観を適切に保護するため、集落及び農耕地を除くすべての地域を特別地域とし、自然景観の特性に応じたきめ細かい保護を図るため、特別地域を第１種から３種の３つの地域に区分し指定している。

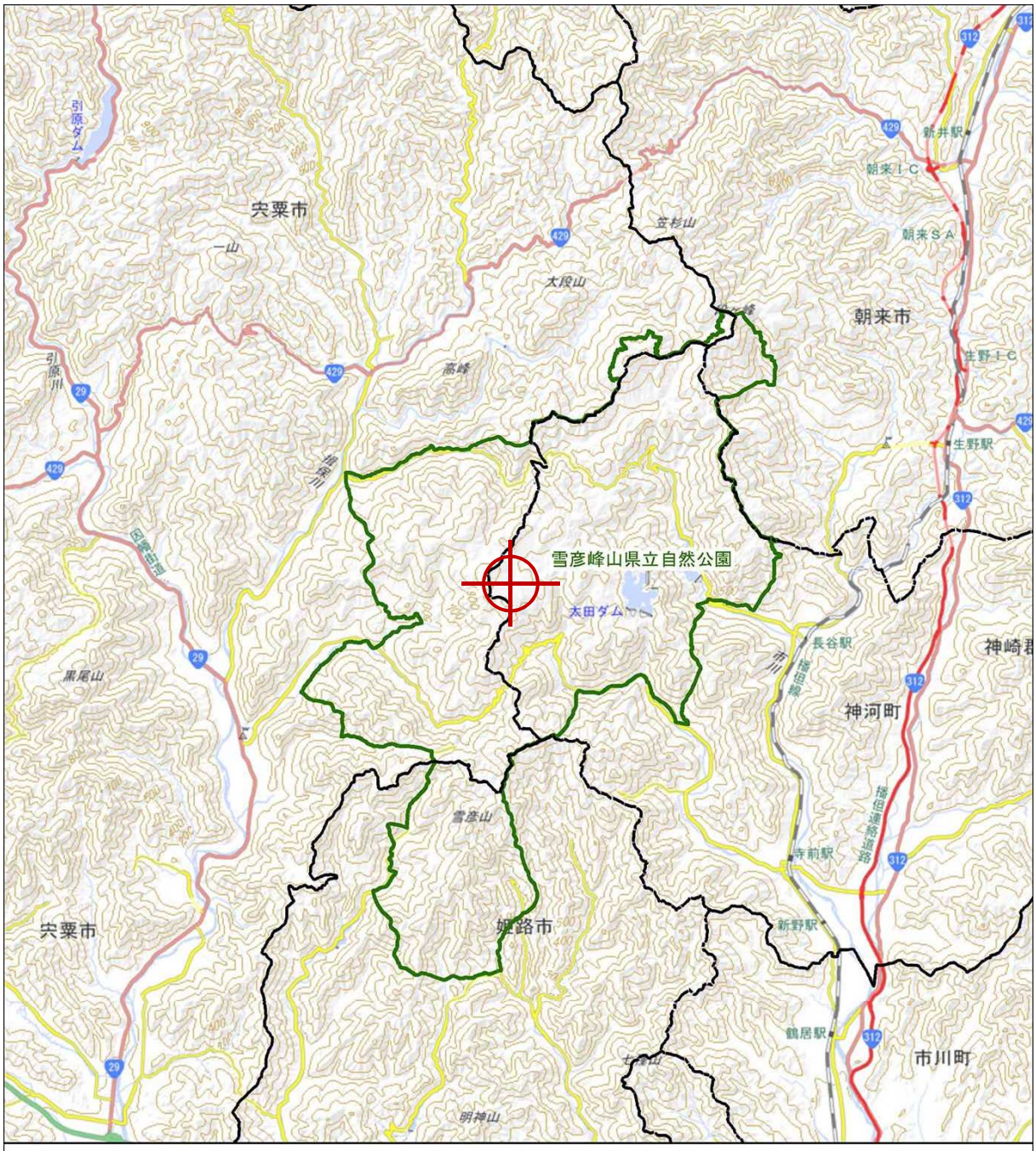
地種区分	選定方針	代表的箇所
第１種特別地域	自然景観の骨格となる地形・地質が特異であり、植生の自然性が高い地域、貴重な野生生物が生息している地域	雪彦山
第２種特別地域	代償植生であるが、比較的自然性の高い植生を中心とした地域や利用上重要な地域	峰山高原 砥峰高原 福知渓谷
第３種特別地域	第１種及び第２種以外の地域で、人工林が主体となる地域	
普通地域	集落及び農耕地	

（２）利用施設計画

集団施設地区１箇所、単独施設 23 箇所が計画されている。

【利用施設（抜粋）】

施設名称	場所	概要
集団施設地区	峰山高原	スポーツ・レクリエーションゾーン
	砥峰高原	滞在型の健康づくりゾーン
避難小屋	雪彦山	登山者の避難場所
博物展示施設	坂根（雪彦山）	ビジターセンター
宿舎	川上	宿泊施設



凡　例

国定公園･県立自然公園

市町界

事業地（峰山高原）の位置

0　5　10 km

図 1　雪彦峰山県立自然公園区域概要

２　公園計画変更に係る審議内容

（１）経緯

公園計画において、峰山高原は、集団施設地区に指定され、スポーツレクリーションゾーンとして位置づけられている。この方針に基づき、現在、峰山高原には、ホテル、キャンプ場、自然歩道等が整備され、年間８万人に利用されている。

神河町が整備したホテルリラクシアは、峰山高原において、宿泊利用のみならず、飲食、休憩、情報提供等機能の役割を果たしている。

神河町では、峰山高原における冬季利用の促進及び更なる地域活性化のため、新たな集客施設としてスキー場の事業化を計画しており、県に対しスキー場の整備が行えるよう公園計画変更の申し出があった。

【峰山高原概要】

峰山高原は、地元住民の放牧場、陸軍の軍馬放牧場として活用され、草原として維持されてきたが、現在は、二次林と一部草原を主体とする高原となっている。昭和 56 年に保養施設が整備され、レクリエーション拠点として活用されている。

昭和 17 年以前	陸軍省用地（軍馬等の放牧場として活用）
昭和 17 年	陸軍省用地　兵庫県に払い下げ 太平洋戦争からの帰国者向けの農地等として活用
昭和 38 年	雪彦峰山県立自然公園に指定
昭和 56 年～	簡易保険福祉事業団「峰山高原総合レクリエーションセンター」開業、レクリエーション拠点として活用
平成 12 年	「峰山高原総合レクリエーションセンター」廃止
平成 15 年	峰山高原ホテル「リラクシア」開業

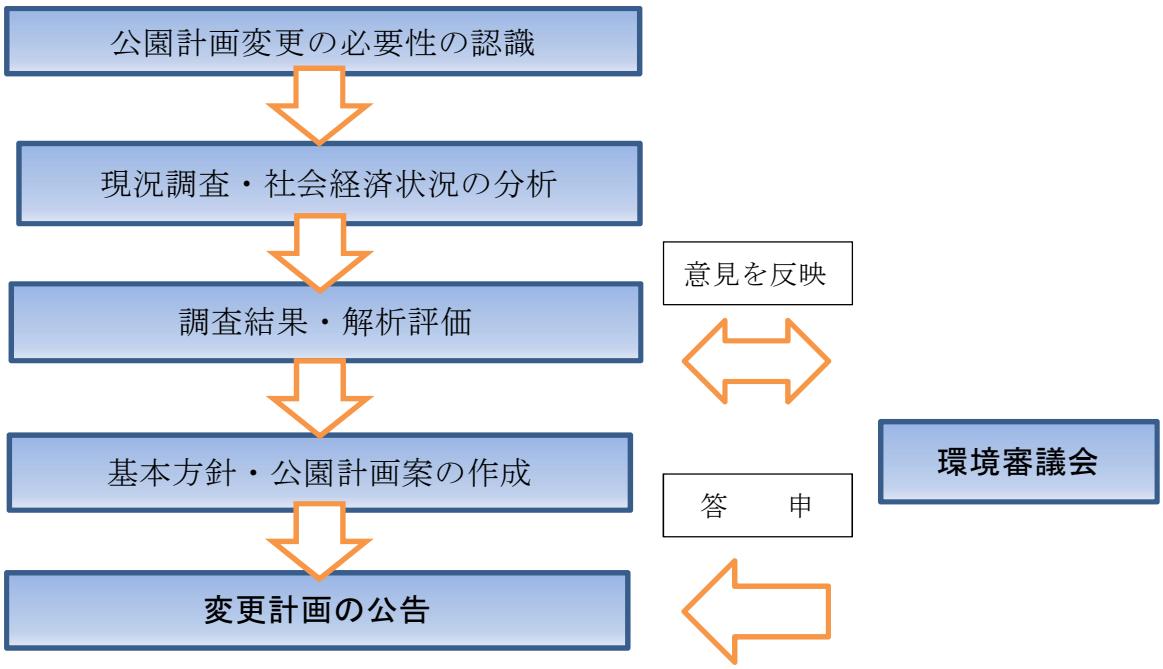
（２）審議内容

〇施設計画の変更

（ア）単独施設

神河町上小田（峰山高原）において、スキー場（１箇所）を計画する。

【参考】公園計画策定（変更）手順



３　峰山高原における自然環境の現況と特性

・想定事業区域は、標高約 900～1,070m の範囲にあり、高原状の緩やかな斜面が広がる。
・岩塊流等の周氷河地形が存在しており、最新の兵庫県版レッドデータブックには地形・地質のＡランク[注]として掲載されている。
・「周氷河地形による穏やかな起伏を持った雄大な高原の景観」を有することにより、同レッドデータブックでは自然景観のＢランク[注]として掲載されている。
・昭和前半までは、ほぼ全体が草原となっており、放牧などに利用されていた。
・現在は、樹林化により成立したミズナラ群落などが広がるが、一部には草原や湿原も分布している。
・かつては、キキョウ、オミナエシ、ハバヤマボクチなどの草原生植物や、ウスイロヒョウモンモドキやヒョウモンモドキなどの草原生動物が確認されていたが、樹林化により多くの種が消失している。

注：兵庫県版レッドデータブック 2011（地形・地質・自然景観・生態系）の区分
　Ａランク：規模的、質的にすぐれており貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの
　Ｂランク：Ａランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県的価値に相当するもの

写真　現在の峰山高原

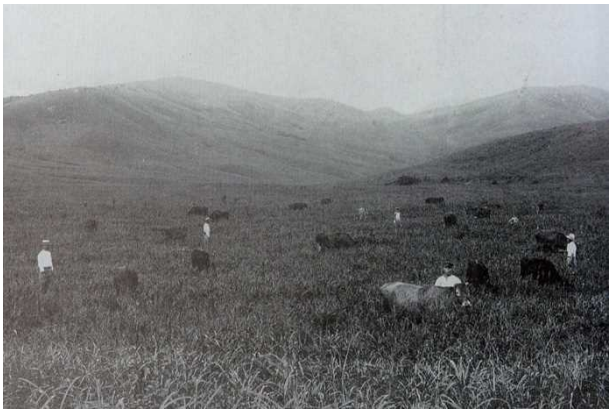


写真　昭和 10 年頃の峰山高原
［出典］「おおかわち」（大河内町教育委員会、平成 8 年）

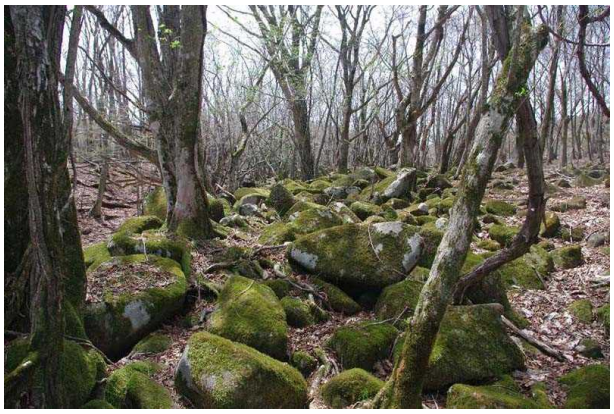


写真　岩塊流

４　公園計画変更に係る調査

（１）環境影響調査の概要

・自然環境の現況を踏まえて事業により影響が生じるおそれのある環境要素を抽出し、現地調査等及び予測・評価の対象とする環境要素を選定している（表１）。
・調査期間は原則１年間とし、それぞれの項目の適期に実施する（表２）。
・動植物の調査範囲は、想定事業区域から 200m のバッファをとった範囲とし、景観の調査範囲は、対象事業区域を含む半径 5km の範囲としている。

表１　環境調査及び予測・評価の対象項目

調査及び予測・評価の段階 ＼ 環境要素		①地形・地質	②植物	③動物	④景観	⑤生態系
文献等調査		○	○	○	○	○
現地調査			○	○	○	※
予測・評価	工　事	○	○		○	○
	存　在			○	○	○
	供　用		○		○	○

※生態系の予測・評価は、植物・動物の現地調査結果を活用する。

表２　環境調査の実施項目及びスケジュール

項　目			平成27年									平成28年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
文献等調査			資料の収集・整理											
現地調査														
	植物	植物相	早春季	春季		夏季		秋季						
		植　生						秋季						
	動物	哺乳類		春季		夏季		秋季			冬季			
		鳥類・希少猛禽類			春季	夏季				秋季	冬季			
		（定点観測）		繁殖期										
		爬虫類・両生類	早春季			夏季		秋季						
		昆虫類		春季		夏季			秋季					
	景観			春季						秋季	落葉期			
予測・評価・環境保全措置検討					（調査結果を順次計画等に反映）					予測・評価・環境保全措置検討				
環境調査図書作成													図書作成	

〔備考〕重要な種の選定基準
国：「環境省版レッドリスト」（環境省）
県：「兵庫県版レッドデータブック」（兵庫県）

①地形・地質の状況

・文献資料[注1]によると、峰山高原の岩塊流は、想定事業区域及びその北東に広がる緩傾斜地を中心に分布している（図２）。
・想定事業区域内では、緩傾斜地の広がる中央部に岩塊流[注2]が見られる。

注１：［出典］「兵庫県中央部、峰山高原の地形と岩塊流」（田中他、昭和 63 年）
注２：岩塊流：岩塊流は、地中の水分が凍結や融解を繰り返すことによってできた２～５ｍ大の岩塊が、蛇のように続く流れのように集まった状態を言う。

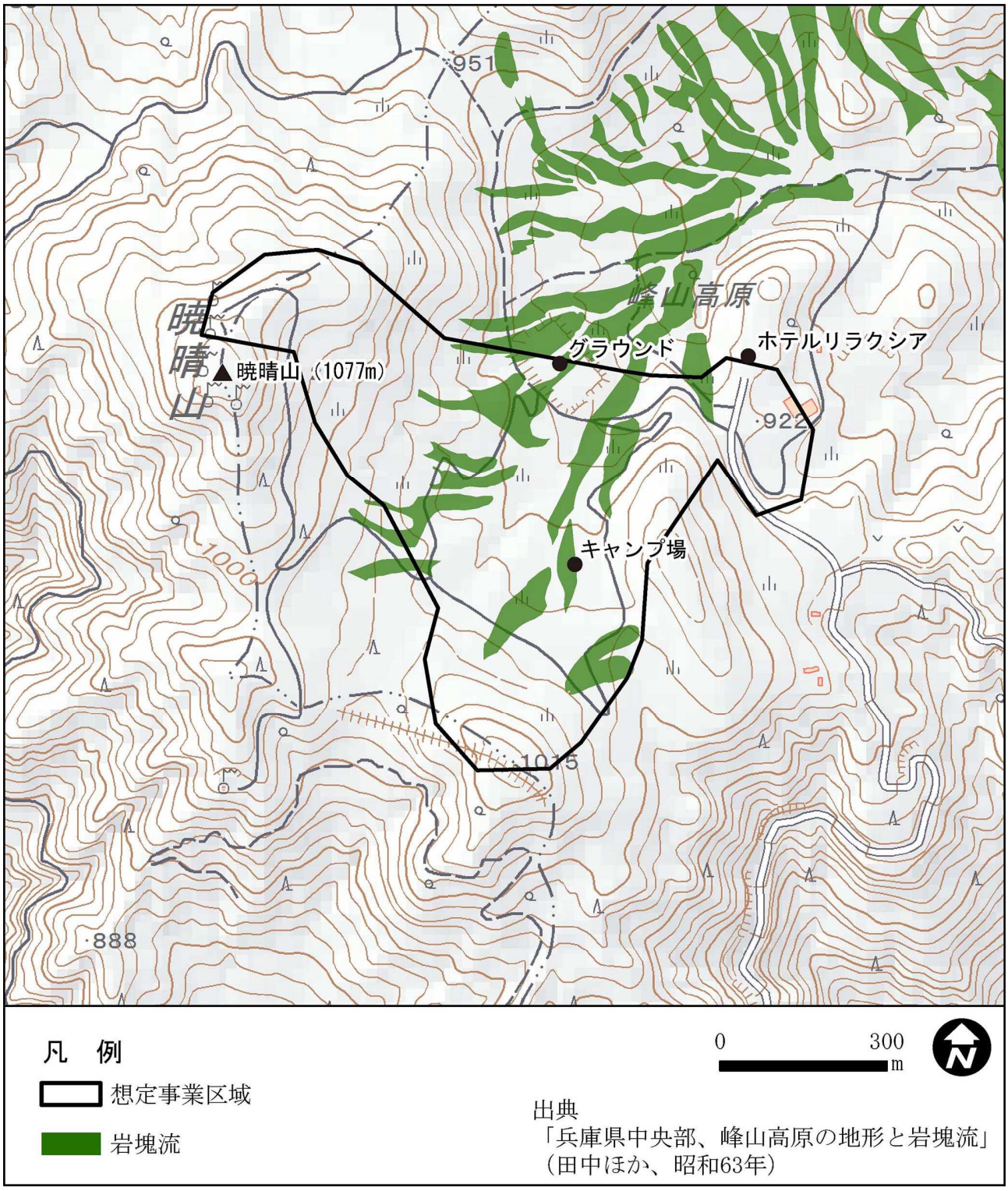


図２　岩塊流の分布状況

②植物の状況

・早春季及び春季に実施した現地調査では、サラサドウダン、ニシキウツギ、キオンなど重要な種 8 種を含む 236 種の生育が確認された。
・高密度で生息するシカの採食圧により、林床植生の消失や、イワヒメワラビ群落などシカの不嗜好性植物の優占が生じている。

表３　植物の調査方法及び実施日

項　目	調査方法	調査実施日（早春季～春季）
植物相	現地を踏査し、確認された植物種の種名を記録した。	平成 27 年 4 月 24 日、5 月 12、20～21 日、6 月 2 日
植　生	春季は、空中写真を参考に現地を踏査し、相観に基づいて現存植生図の予察図（図３）を作成した。秋季には、調査範囲に分布する植物群落の代表箇所に方形区を設定し、植物社会学的植生調査法による植生調査を行う。また、その結果を踏まえて現存植生図を作成する。	平成 27 年 5 月 20 日

表４　現地調査で確認された植物の重要な種（早春季～春季）

科　名	種　名	重要な種の選定基準		確認環境
		国	県	
メギ科	オオバメギ		C ランク	樹林、林縁
ツツジ科	サラサドウダン		B ランク	樹林
ゴマノハグサ科	オオヒナノウスツボ		C ランク	林縁、草原
スイカズラ科	ニシキウツギ		C ランク	低木林
キク科	キオン		B ランク	草原、樹林
サトイモ科	ホソバテンナンショウ		C ランク	樹林
イネ科	ヒメコヌカグサ	準絶滅危惧		湿地
ラン科	エビネ	準絶滅危惧	C ランク	樹林

サラサドウダン

ニシキウツギ

キオン

岩塊流上に発達する樹林

シカの影響が現れた植生

湿地植物群落

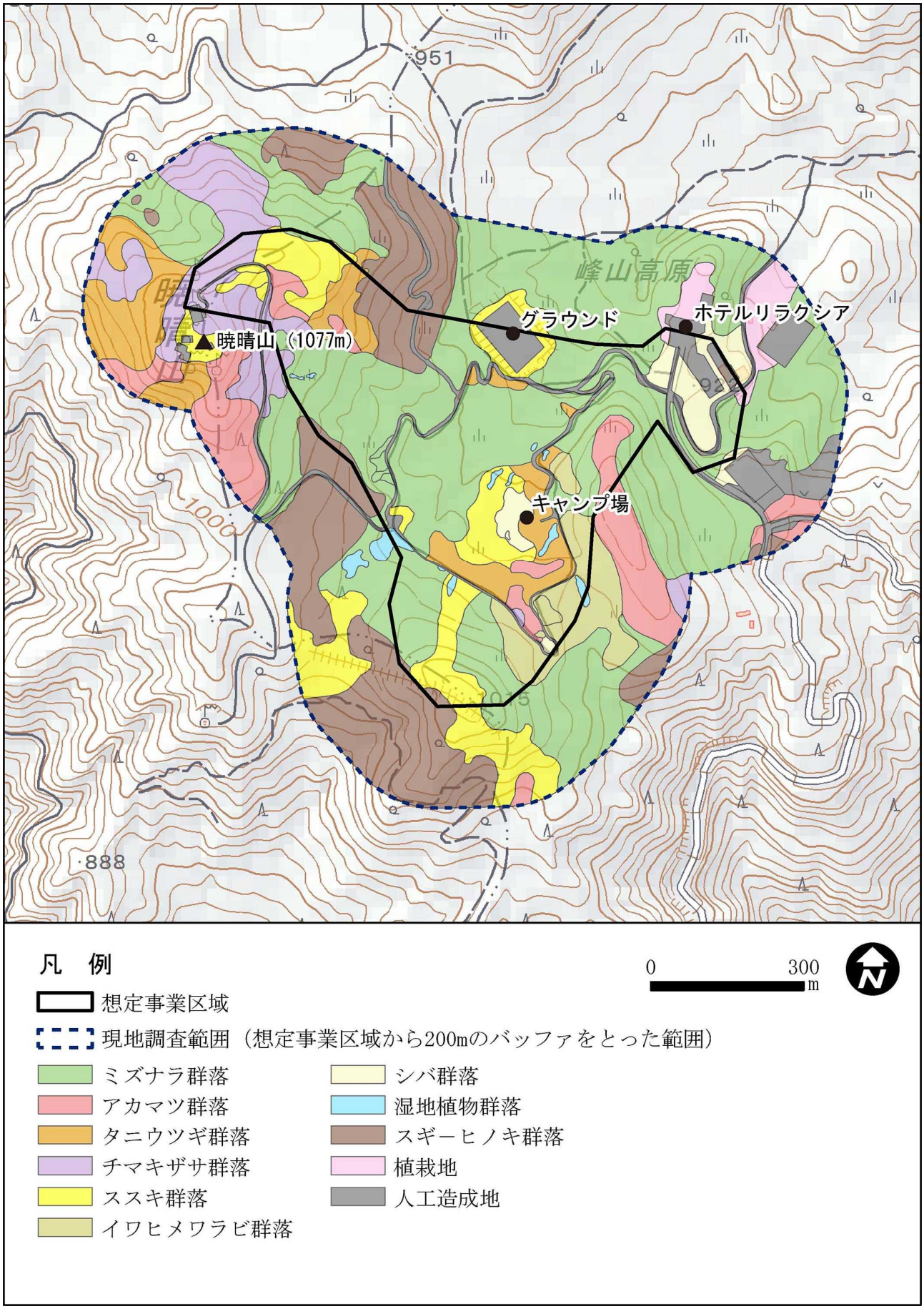

951
峰山高原
暁晴山（1077m）
グラウンド
ホテルリラクシア
キャンプ場
1000
888
凡　例
0
300
m
想定事業区域
現地調査範囲（想定事業区域から200mのバッファをとった範囲）
ミズナラ群落
アカマツ群落
タニウツギ群落
チマキザサ群落
ススキ群落
イワヒメワラビ群落
シバ群落
湿地植物群落
スギーヒノキ群落
植栽地
人工造成地

図３　現存植生図（予察図）

③動物の状況

・春季の調査では、アナグマ、ヨタカ、ヒダサンショウウオ、トヤマオオミズクサハムシ、ギンイチモンジセセリなど 19 種の重要な種が確認された。
・希少猛禽類については、想定事業区域及びその周辺において 4 種の飛翔行動が確認されたが、想定事業区域内での繁殖行動は確認されなかった。

表５　動物の調査方法及び実施日

項　目	調査方法	調査実施日
哺乳類	設定したルートを踏査し、フィールドサイン（糞や足跡、食痕、巣、爪痕、クマ棚、モグラ塚等の生息痕跡）の確認を行い、確認された痕跡の種名、確認位置、確認内容等を記録した。	平成 27 年 5 月 21 日
鳥　類	設定したルートを踏査し、鳴き声や目視により確認された種（希少猛禽類を含む）の種名、個体数、確認位置、繁殖行動等を記録した。夜行性鳥類の生息状況を確認するため、コールバック法[1]による調査も実施した。	平成 27 年 5 月 22 ～ 23 日
希少猛禽類[2]	調査地点を 2 地点設置して主要な希少猛禽類の育雛期にあたる 5 月に 3 日間連続の定点観察を実施し、確認された種の種名、飛翔軌跡、齢、性別、個体の特徴、行動等を記録した。	平成 27 年 5 月 20 ～22 日（3 日間）
爬虫類・両生類	設定したルートを踏査し、確認された種の種名、個体数、確認位置、確認状況、繁殖行動等を記録した。	平成 27 年 4 月 22 日、5 月 20 日
昆虫類	設定したルートを踏査しながらスウィーピング法[3]など場所に応じた手法で昆虫類を確認し、確認された種名（重要な種については、個体数、確認位置、確認環境等）を記録した。	平成 27 年 5 月 20 日

〔備考〕
1. コールバック法：フクロウ類やヨタカの声を各調査対象種の繁殖時期にスピーカーから流して反応（飛翔個体、鳴き合い行動の有無）を確認する方法。
2. 希少猛禽類：環境省及び兵庫県版レッドリストに記載されているワシ・タカ類とした。
3. スウィーピング法：捕虫ネットを強く振り、草や枝、花をなぎ払い昆虫類等を捕まえる方法。

表６　現地調査で確認された動物の重要な種（早春季～春季）

分類群	科　名	種　名	重要な種の選定基準	
			国	県
哺乳類	イタチ科	アナグマ		C ランク
鳥　類	ヨタカ科	ヨタカ	準絶滅危惧	A ランク
	キツツキ科	アオゲラ		C ランク
		アカゲラ		C ランク
	ヒタキ科	キビタキ		要注目種
		オオルリ		要注目種
	シジュウカラ科	コガラ		要注目種
希少猛禽類	ミサゴ科	ミサゴ	準絶滅危惧	A ランク
	タカ科	ハチクマ	準絶滅危惧	B ランク
		オオタカ	準絶滅危惧	B ランク
		クマタカ	絶滅危惧 IB 類	A ランク
両生類	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	準絶滅危惧	B ランク
		アカハライモリ	準絶滅危惧	要注目種
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		C ランク
	アカガエル科	タゴガエル		C ランク
		トノサマガエル	準絶滅危惧	
	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		C ランク
昆虫類	ハムシ科	トヤマオオミズクサハムシ		A ランク
	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	準絶滅危惧	B ランク

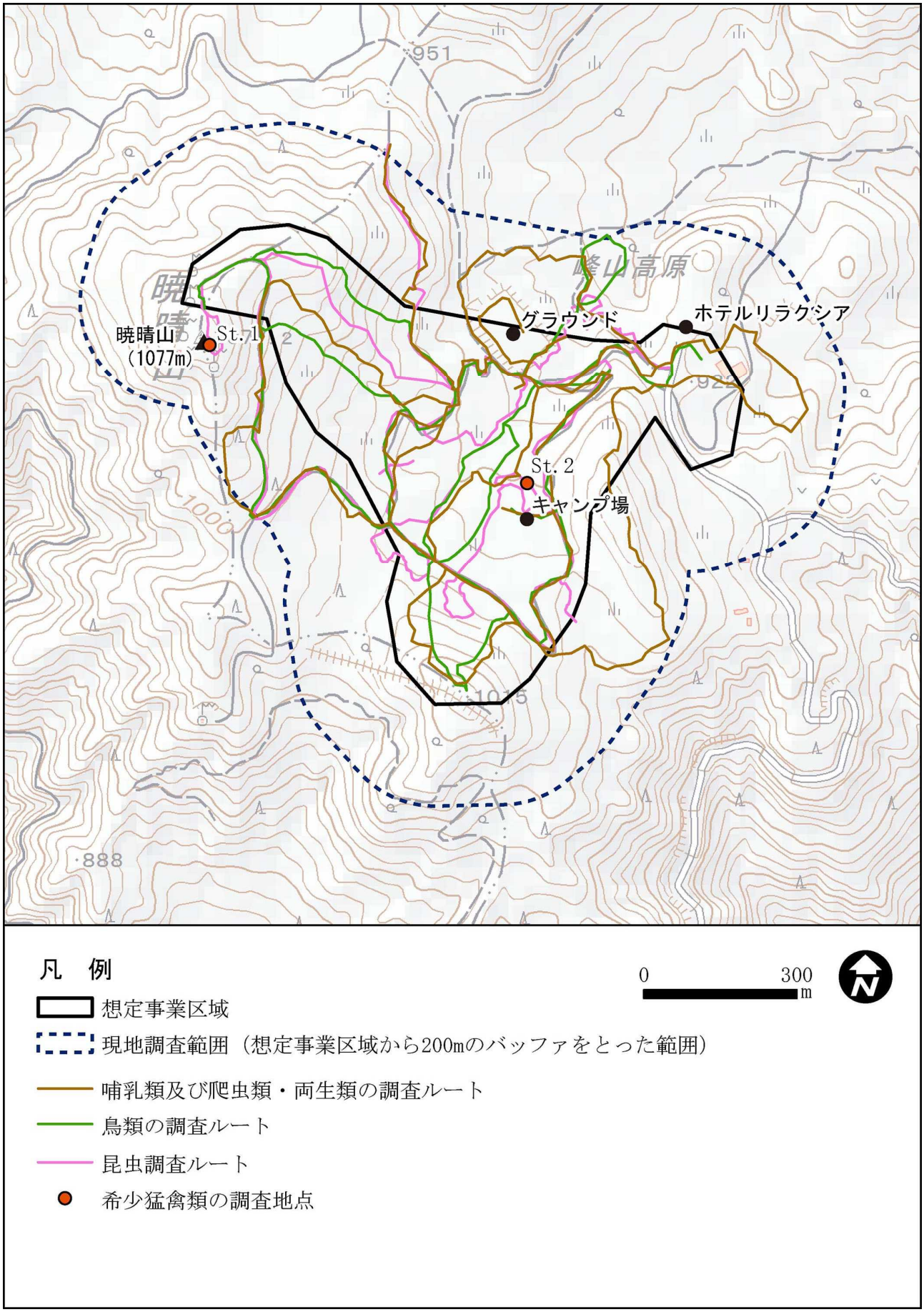

951
峰山高原
暁晴山
St.1
(1077m)
グラウンド
ホテルリラクシア
St.2
キャンプ場
1000
1015
888
凡　例
0
300
m
想定事業区域
現地調査範囲（想定事業区域から200mのバッファをとった範囲）
哺乳類及び爬虫類・両生類の調査ルート
鳥類の調査ルート
昆虫調査ルート
希少猛禽類の調査地点

図４　動物の調査ルート

④景観の状況

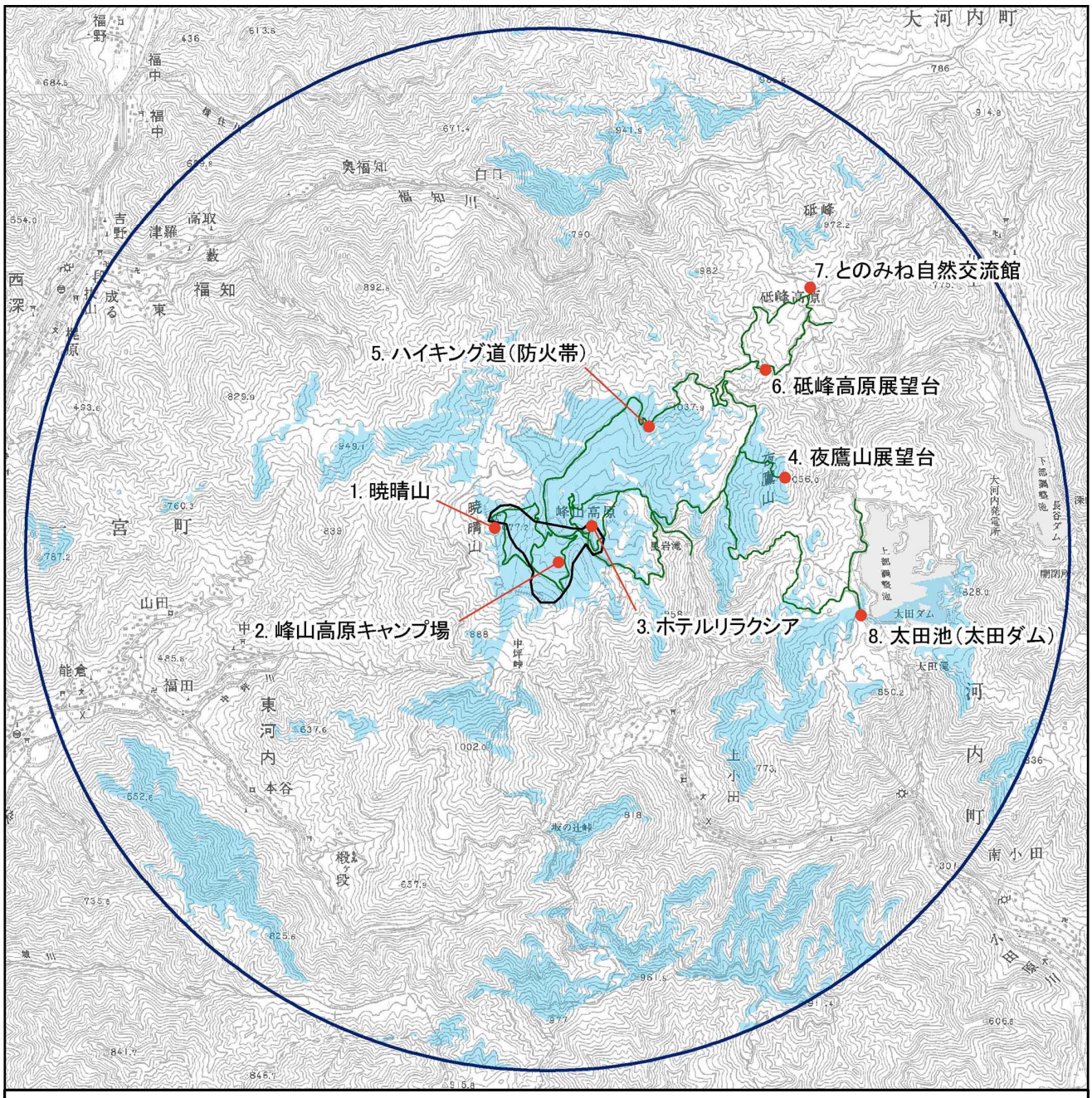
・対象地及びその周辺には、暁晴山、峰山高原キャンプ場、ホテルリラクシア、夜鷹山展望台、ハイキング道、夜鷹山展望台などの眺望点が存在している（図５）。
・可視領域図及び現地踏査に基づいて想定事業区域の眺望状況を確認し、選定した 3 地点（暁晴山、峰山高原キャンプ場、ハイキング道）からの現況写真を撮影した（表８）。

表７　景観の調査方法及び実施日

調査方法	調査実施日
文献資料等をもとに想定事業区域及び周辺 5km に存在する主要な眺望点を抽出し、可視領域図の作成や現地踏査による眺望状況の確認を踏まえて選定した 3 地点で現況写真を撮影した。写真の撮影には、実際の視野角に近い画角（35mm 判換算焦点距離 30～35mm）のレンズを用いた。	平成 27 年 5 月 21 日（眺望状況の確認、春季の写真撮影）

表８　景観写真の撮影地点及び眺望の状況

No.	地点名	位置関係及び概要	眺望の状況
1	暁晴山	近景 （山頂から見下ろす眺望景観） 峰山高原の最高峰であり、ふるさと兵庫 100 山のひとつ。山頂からは 360 度の展望が広がる。	
2	峰山高原キャンプ場	近景 （暁晴山を見上げる眺望景観） 峰山高原内に位置し、周囲を自然に囲まれた中でキャンプが可能となっている。北西方面に暁晴山を望むことができる。	
3	ハイキング道（防火帯）	中景 （対象事業区域全体の眺望景観） 砥峰高原と峰山高原を繋ぐハイキング道。ルートの大半は樹林内を通るが、樹木のない防火帯からは峰山高原を一望できる。	



凡　例

- 想定事業区域
- 調査範囲（想定事業区域を中心とした半径5kmの円）
- 主要な眺望点
- ハイキング道
- 想定事業区域の可視領域

No.	名　称	想定事業区域までの距離	視認性	
			図面	現地
1	暁晴山	－	○	○
2	峰山高原キャンプ場	－	○	○
3	ホテルリラクシア	－	○	○
4	夜鷹山展望台	約 1.9km	○	○
5	ハイキング道（防火帯）	約 1.1km	○	○
6	砥峰高原展望台	約 2.2km	×	×
7	とのみね自然交流館	約 3.1km	×	×
8	太田池（太田ダム）	約 2.6km	×	×

0　2 km

図５　想定事業区域及びその周辺における主要な眺望点の分布状況

（２）社会状況調査の概要

① 土地の所有、利用の現況

・想定事業区域は、県有地及び民有地からなる。大部分は山林であるが、一部はキャンプ場やグラウンド、駐車場などとして利用されている。
・峰山高原の最高峰である暁晴山（標高 1,077m）は、高原から容易に登ることができ、山頂からの眺望も優れているため、登山に訪れる人も多い。
・人工林は、間伐や枝打ちなどの適切な管理がなされている。

② 人口

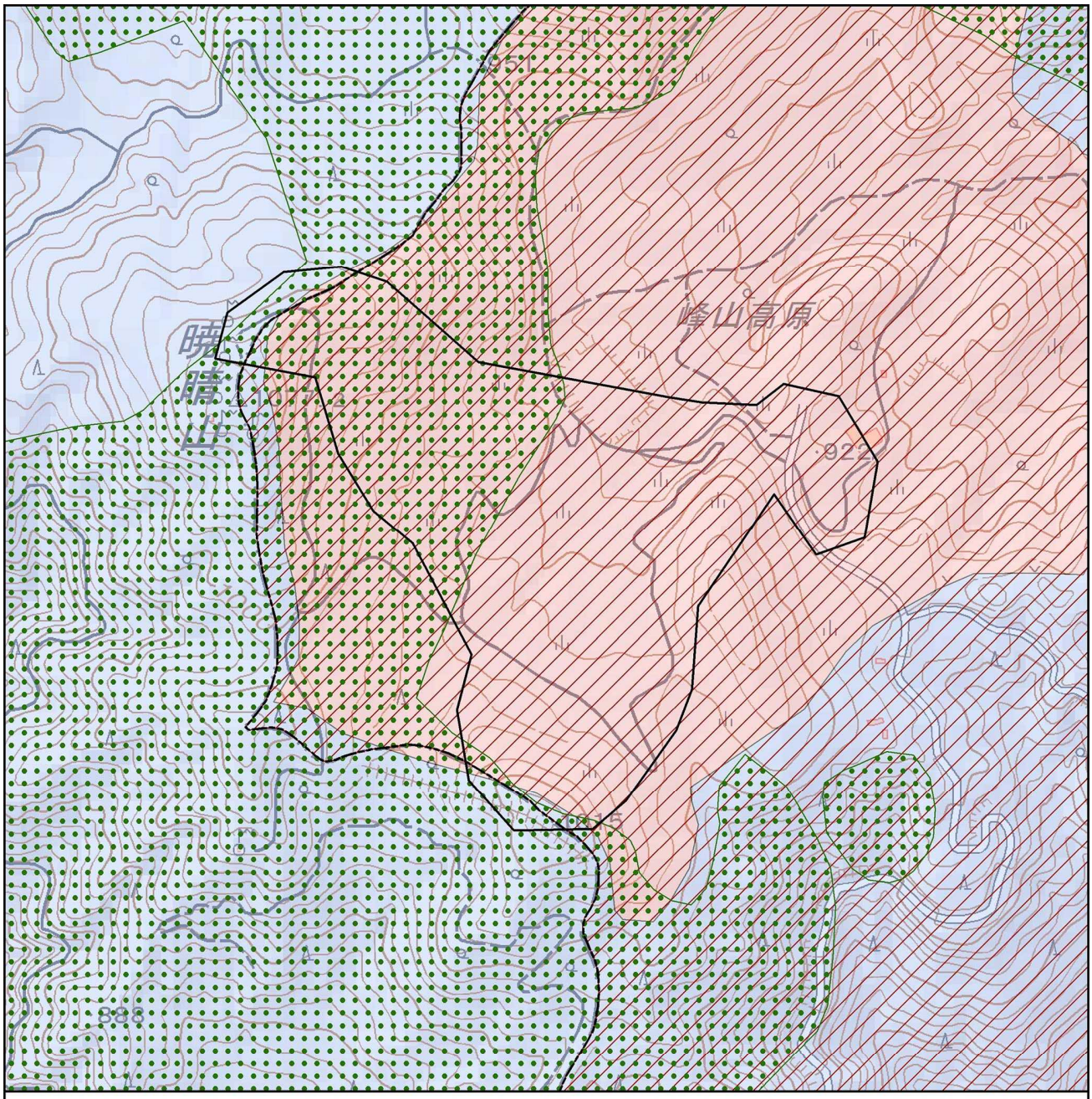
・平成 22 年の国勢調査によると、神河町の人口は 12,289 人、兵庫県全体の人口（5,588,133 人）の約 0.2%を占めている。また、神河町の人口密度は 60.8 人/km 2 であり、兵庫県全体の人口密度（665.5 人/km 2）に比べ、極めて低い地域となっている。
・国勢調査年次における過去 10 年の人口の推移をみると、兵庫県全体では概ね横ばい傾向に、神河町はいずれも減少傾向にある。

③ 地域指定、権利制限の現況

・想定事業区域には、自然公園地域の他に、鳥獣保護区及び保安林の指定地域が含まれる。また、事業の実施にあたっては、瀬戸内海環境保全特別措置法や緑豊かな地域環境の形成に関する条例、総合治水条例にかかる許可申請等が必要となる（表９、図６）。

表９　指定地域の分布状況

区分	対象法令	特別地域等	指定
法律	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律	鳥獣保護区	○
	森林法	保安林	○
	自然公園法	国立自然公園・国定自然公園	－
	近畿圏の保全区域の整備に関する法律	近郊緑地特別保全地区	－
	都市計画法	市街化調整区域、風致地区	－
	農業振興地域の整備に関する法律	農用地区域	－
	自然環境保全法	自然環境保全地域	－
	都市緑地法	特別緑地保全地区	－
	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	生息地等保護区	－
	急傾斜地の崩壊による災害防止に関する法律	急傾斜地崩壊危険区域	－
	砂防法	砂防指定地	－
	瀬戸内海環境保全特別措置法	－	○
条例	兵庫県立自然公園条例	県立自然公園	○
	環境の保全と創造に関する条例	自然環境保全地域等	－
	緑豊かな地域環境の形成に関する条例	緑豊かな環境形成地域	○
	総合治水条例	－	○



凡　例

- 想定事業区域
- 市町界
- 保安林
- 鳥獣保護区

自然公園地域

- 第2種特別地域
- 第3種特別地域

0　300 m

［出典］
国土数値情報ダウンロードサービス（国土交通省国土政策局国土調査課）のデータより作成

図６　指定地域の分布状況

④ 国内スキーの現況

1）スキー人口等

・観光庁では、「スキーリゾート地域の活性化に向けた検討会」を開催し、自然条件、経済条件が厳しい地方の山間部を、スキーリゾートを通じて活性化を行うよう提言した報告（中間報告）を行っている
・観光庁『スノーリゾート地域の現状』（平成 27 年）によれば、
○「レジャー白書 2014」によると、スキー・スノーボード人口は、平成 10 年（1998 年）に 1,800 万人に達したが、その後は減少傾向で推移し、平成 25 年（2013 年）にはピーク時の 4 割強にあたる 770 万人にまで減少している（図 7）。
○スキー人口の減少は、異常な盛り上がりをみせたバブル期に対してのことであり、平成 24～25 年の 2 年間は 1980 年代の水準で横ばいとなっている。急激な減少から回復基調との見方もある。

図 7　国内におけるスキー実施率及びスキー人口の推移
出典：観光庁『スノーリゾート地域の現状』（平成 27 年）

2）スキー場運営事業の変化

・近年、積極的な買収、委託等で運営するスキー場を増やしスケールメリットを活かした経営を行っているスキー場運営企業が数社ある。
・県内では、養父市に本社を置く(株)マックアースが、国内最大数のスキー場を運営している。
・国内のスキー場では、新たなスキー人口の確保やスキー場利用者の増加に向けて、さまざまな取り組みが進められている（表 10）。

表 10　国内におけるスキー場における近年の取り組み例

目　的	取り組み例
国内スキー人口の拡大	○ 19 歳のリフト券無料化による中長期の需要創出
スキー場の差別化	○ 共通シーズン券の発行、シーズン券の値下げ ○ 高品質なレンタルサービスの提供
スキー場の多角利用	○ ウィンタースポーツ以外の観光利用（樹氷の観察や体験型・交流型観光 ○ 夏季の利用による通年型観光の実施
インバウンド人口の拡大	○ 訪日旅行者に対するイベント・プロモーションの開催

出典：観光庁『スノーリゾート地域の現状』（平成 27 年）

3）国内スキー場のインバウンド需要

・観光庁「平成 22 年度ターゲット国ニーズ調査」によると、東アジア及びオーストラリアからの訪日旅行者にとって、スキー等のウィンタースポーツは潜在需要が他のスポーツと比べて大きくなっており、外国人観光客のスキーに対する期待は高い。（図８）。

・インバウンド（外国人観光客）の動向

目標　2014 年 1,341 万人→2020 年 2,000 万人

１月～２月閑散期　需要創出が必要（図９）

出典：観光庁『スノーリゾート地域の現状』（平成 27 年）

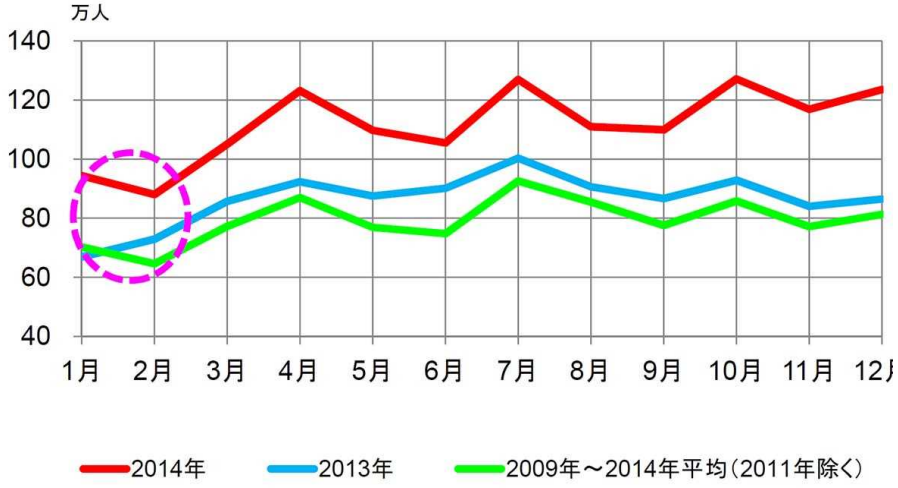
〈今後の訪日旅行でしたいことは？〉 ※スポーツのみ抜粋

単位：%

	n	プロスポーツ観戦	ゴルフ	マラソン・ランニングなど	スキー・スノーボードなどウィンタースポーツ	トレッキング・登山・ラフティングなどアウトドアスポーツ	ダイビング・シュノーケリングなどマリンスポーツ	その他スポーツアクティビティ
オーストラリア	258	2.7	3.9	0.8	14.7	8.5	3.9	0.8
韓国	381	2.4	3.9	1.0	12.9	8.4	1.8	0.0
台湾	395	6.6	4.1	3.8	24.1	12.9	10.6	0.3
中国	364	6.6	15.9	17.3	31.9	23.1	19.8	0.5

［出典：観光庁　平成22年度ターゲット国ニーズ調査］

図８　訪日外国人旅行者に対するアンケート結果（観光庁資料）



[出典：日本政府観光局（JNTO）]

図９　訪日外国人旅行者数の月別推移（観光庁資料）

⑤県内のスキー場の現況

・兵庫県内には 15 箇所のスキー場が存在し、六甲山人工スキー場を除くと、県北西部の但馬及び西播磨地域に分布が集中しており、すべて氷ノ山後山那岐山国定公園等の自然公園内に立地している（表 11）。
・平成 21 年度以降の県内スキー場の利用者数は、全体的に増加傾向にある（図 10）。近年、民間企業が経営に参画している「ちくさ高原」、「おじろ」では、平成 24～25 年度の間に利用者数が目立って増加している。

表 11　兵庫県内のスキー場

スキー場名	所在市町	コース数	リフト数
1. アップかんなべ	豊岡市	5	4
2. 万場	豊岡市	7	4
3. 奥神鍋	豊岡市	6	7
4. ハチ高原	養父市	10	19
5. ハチ北	香美町	14	12
6. スカイバレイ	香美町	9	5
7. ハイパーボウル東鉢	養父市	6	4
8. 氷ノ山国際	養父市	8	8
9. 若杉高原おおや	養父市	3	3
10. おじろ	新温泉町	7	7
11. ミカタスノーパーク	新温泉町	8	8
12. 但馬牧場公園	新温泉町	5	5
13. ちくさ高原	宍粟市	5	4
14. ばんしゅう戸倉	宍粟市	5	5
15. 六甲山人工	神戸市	3	3
16. 峰山高原	神河町		

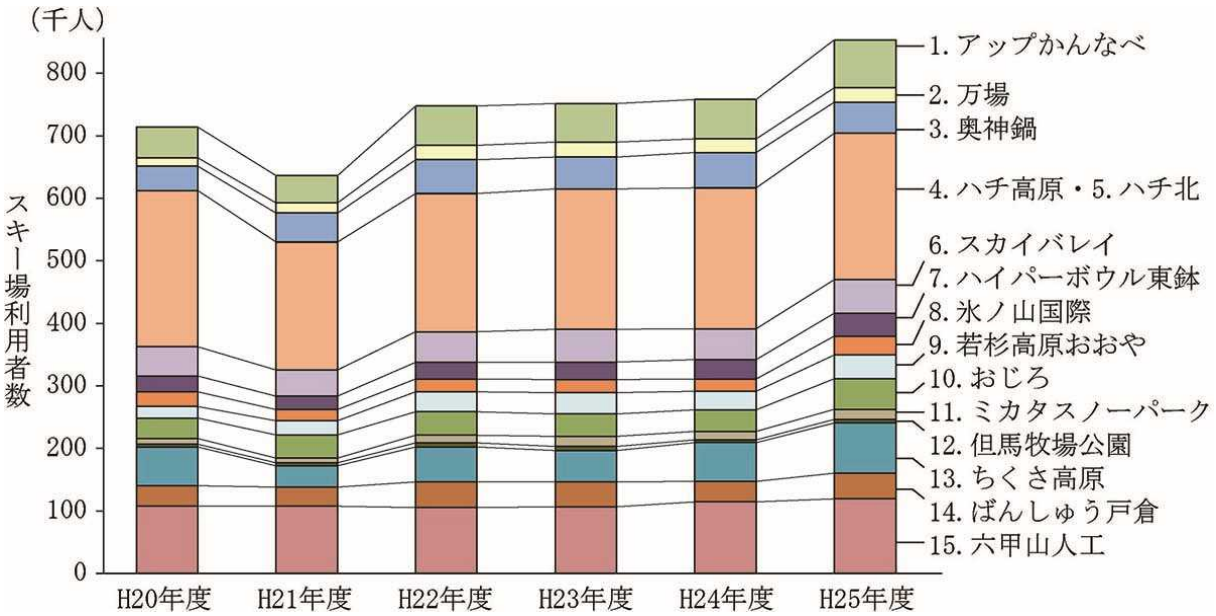


図 10　県内のスキー場における利用者数の推移

（関西鋼索交通協会資料より作成）4･5 はまとめて集計

（３）利用の状況

① 利用資源の現況

1）神河町における観光客の推移等

・神河町への観光客は、峰山高原や砥峰高原が映画等の撮影に活用された平成 20 年以降増加し、平成 24 年には 70 万人を超え、その後 60 万台後半を推移している（図 11）。
・神河町では、峰山高原等において、映画・ドラマ撮影のロケ誘致に力を入れており、ロケ後の観光客誘致を推進している。近年、映画「ノルウェイの森」、NHK 大河ドラマ等のロケ地となっている。
・神河町の主要な観光施設には、峰山高原の他、ヨーデルの森、グリーンエコー笠形がある。
・神河町では、自然公園を活用した観光客誘致に積極的に行っている。
・グリーンエコー笠形は、笠形山千ヶ峰県立自然公園の利用拠点施設として利用されている。
・例年、砥峰高原においては、ススキ草原の山焼き、観月会等を開催し、多くの人が訪れている。
・平成 27 年度（本年９月）には、峰山高原から砥峰高原を周遊する「高原ハーフマラソン」を開催する予定である。

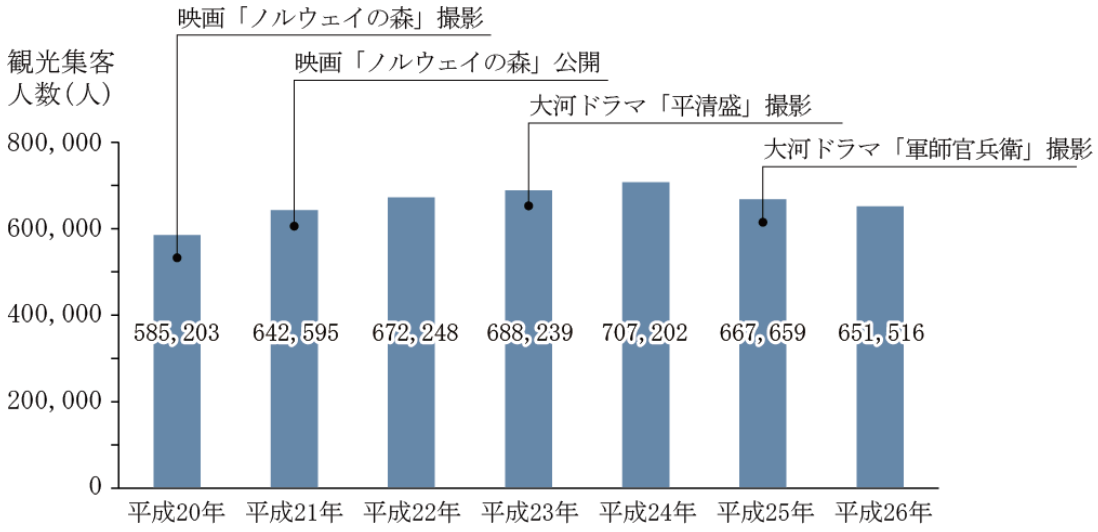


図 11　神河町における観光客数の推移

2）峰山高原及び宿泊施設（ホテルリラクシア）の利用状況

・峰山高原は、保養・レクリエーション拠点として宿泊施設、テニスコート、グランド、キャンプ場、体育館、森林散策道、登山道等が整備されている。
・峰山高原への来訪者は、年間 8 万人程度（平成 26 年度）である。
・神河町が整備した宿泊施設（ホテルリラクシア）は、峰山高原の拠点施設であり、宿泊利用のみならず、飲食、休憩、情報提供等の役割を果たしている。例年約 2 万人のホテルの利用者がいる（図 12）。
・峰山高原の利用者の約 9 割は、夏季（4～11 月）に訪れている。峰山高原は、冬季の景観も素晴らしく、活用が期待されるが、利用施設等がないため利活用が促進されないことが課題となっている。また、ホテルリラクシアは、冬季利用が少ないため、経営が安定しないことが課題となっている。

写真　ホテルリラクシア

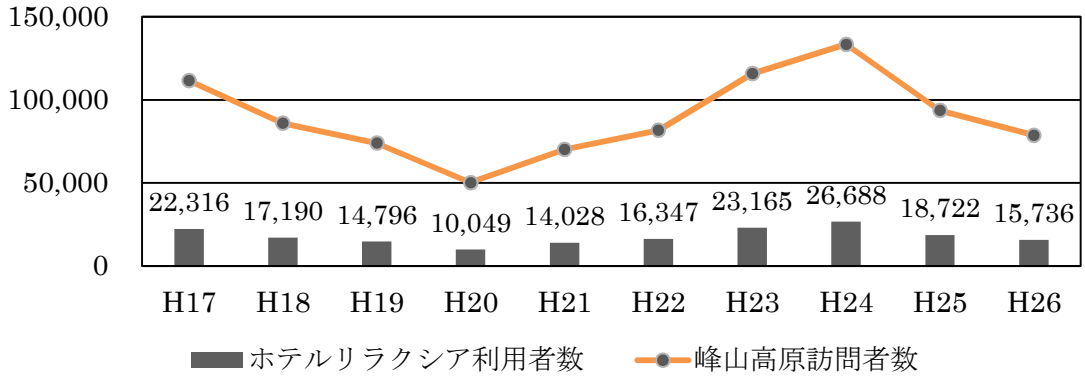


図 12　ホテルリラクシア利用者数の推移

② 気象条件

・峰山高原における冬季（12～3 月）の月平均気温は－4.3～1.6℃、日中の最高気温は－1.5～4.4℃であり、スキー場として利用可能な気温の範囲内にある。
・「メッシュ気候値 2000 年」（気象庁、平成 14 年）によると、峰山高原における冬季（12～3 月）の最深積雪は 91～144cm と推測されている。
・また、平成 27 年に実測した積雪深は 10～105cm であり、1 月から 2 月にかけての大半は 50cm 以上の積雪が確保されている（図 13）。

［備考］気温については、「兵庫“大河内高原”公園都市緑地対策基本計画報告書」（兵庫県、平成 5 年）に記載された昭和 62～63 年の観測値による。

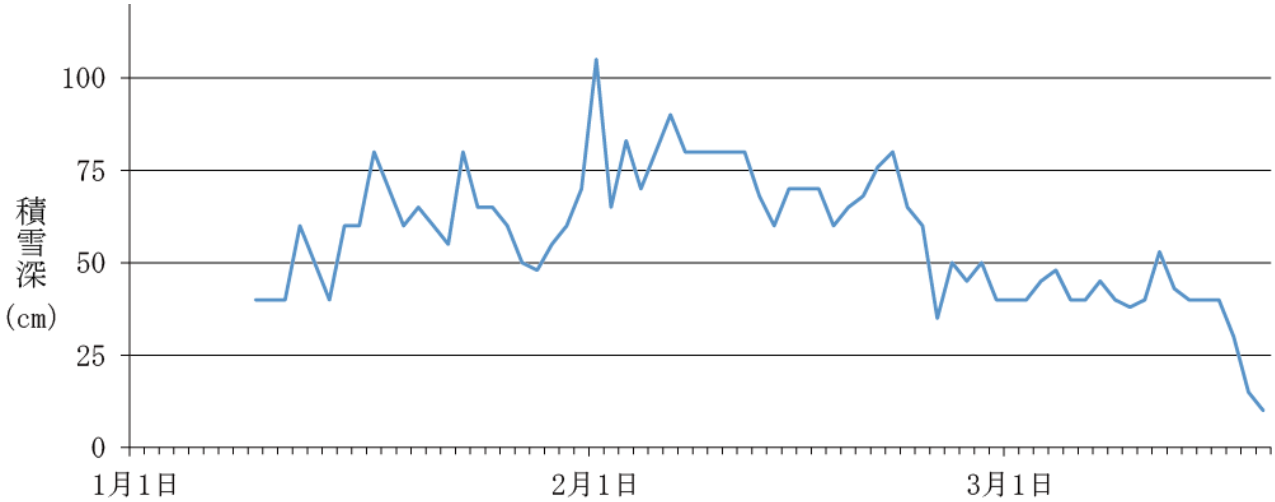


図 13　積雪の現況（平成 27 年 1～3 月の測定結果）

写真　冬季の峰山高原

５ 神河町スキー場計画（神河町作成）

① 計画の概要

≪ 事業の目的 ≫

・県立自然公園（峰山高原）の冬季利用の促進及び神河町の更なる地域活性化のため、新たな集客施設としてスキー場を整備する。
・スキー場コンセプトは、『都市近郊のファミリー・入門者向けスキー場』とし、峰山高原の自然環境に配慮し、最新のコンパクトな設備を導入し、既存の地形を活かしたコース設定とする。

≪ 施設及び運営の概要 ≫

事業区域面積	約 12.0ha
コース	3 コース（延長 830～1,100 m）
リフト	2 基（4 人乗り 1 基、2 人乗り 1 基）
付随施設	センターハウス 1 棟、駐車場（既設 600 台分） 貯水池（人工降雪用）
その他設備	人工降雪機、照明設備、圧雪車両 2 台
事業費（建設工事）	８億円
営業期間・期間	12 月～3 月　9:00～23:00（予定）

≪ コース及び施設等の配置 ≫

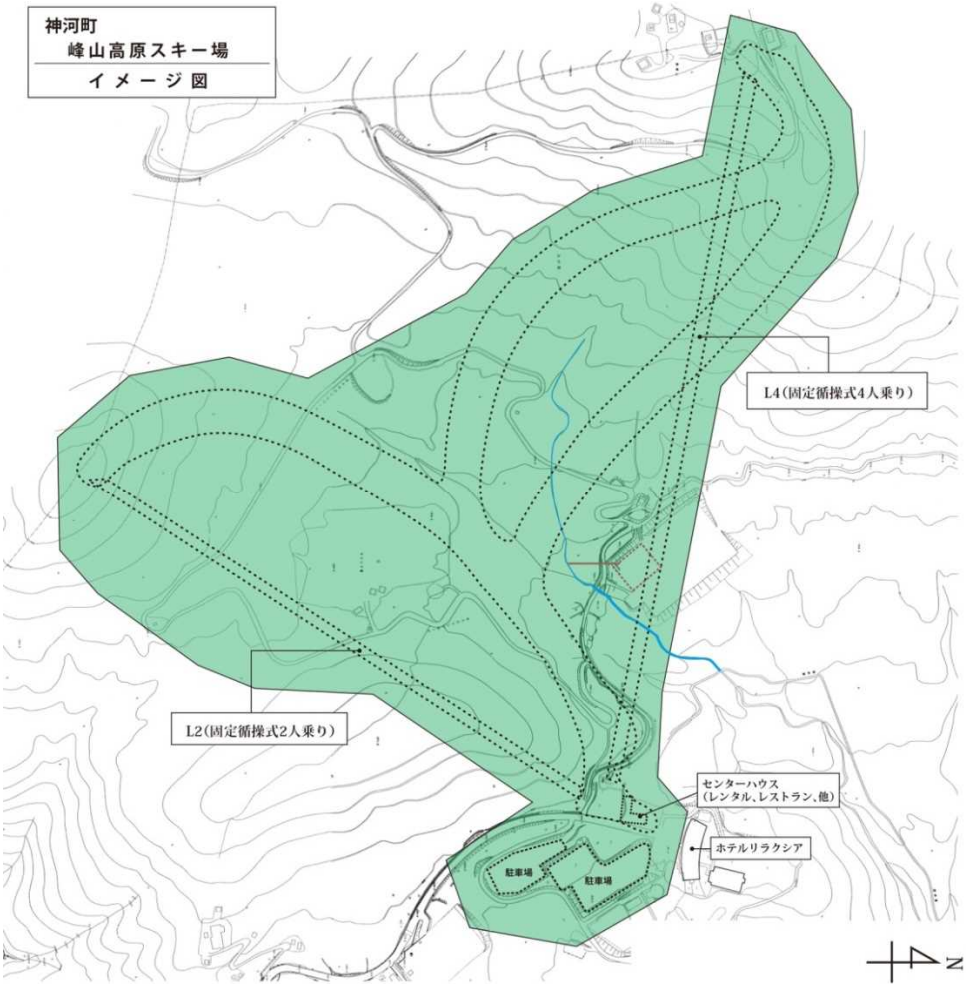


図 14　コース及び施設等の配置イメージ

② スキー場整備の効果

≪ 自然とのふれあい活動や自然環境に与える効果 ≫

・スキー場の整備により、冬季における自然とのふれあいの場を創出することができ、自然公園の利用が促進される。
・スキー場として活用することにより、ススキ草原の管理が可能となり、峰山高原に残る草原環境やそこに生育・生息する動植物の保全が図られる。

≪ 地域社会に与える効果 ≫

・スキー場の運営のために約 50 人の地域住民の雇用が創出される見込みである。また、冬季の雇用促進により過疎化が進行する神河町の定住者増加が期待できる。
・本スキー場がスキーヤーの入り口となることでスキー人口が増加し、県内のスキー場やスキー場が立地する地域にとってもプラスとなり、県内の自然公園に存在するスキー場の適切な維持にも貢献できる可能性がある。

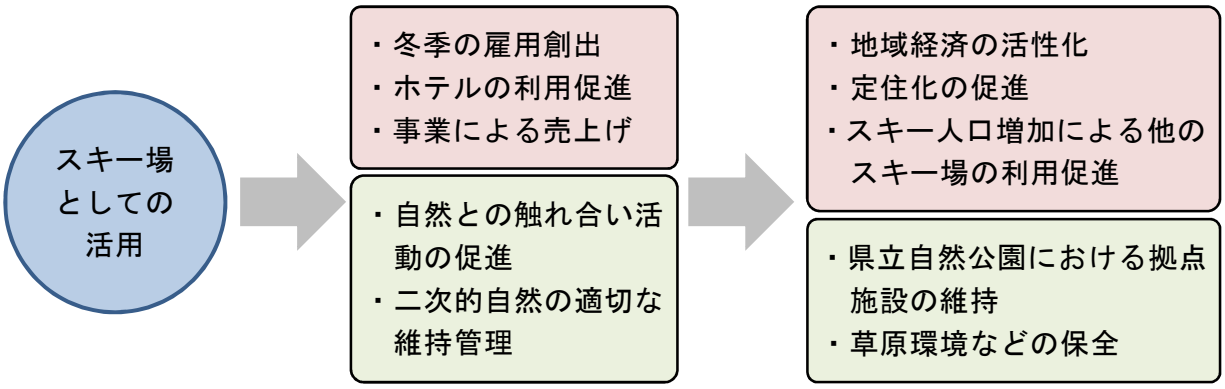


図 15　スキー場事業による自然環境及び地域社会への波及効果

③ 経営方針

・姫路市等の播磨都市圏に近く、緩斜面という地形条件を活かし、初心者や若いファミリー層をメインターゲットとしたスキー場として位置づける（図 16）。
・徹底した広告宣伝やイベント開催、若年層への優遇措置やグループ運営等により、従来のスキー場にない顧客サービスを展開し、新しい顧客層を開発する。

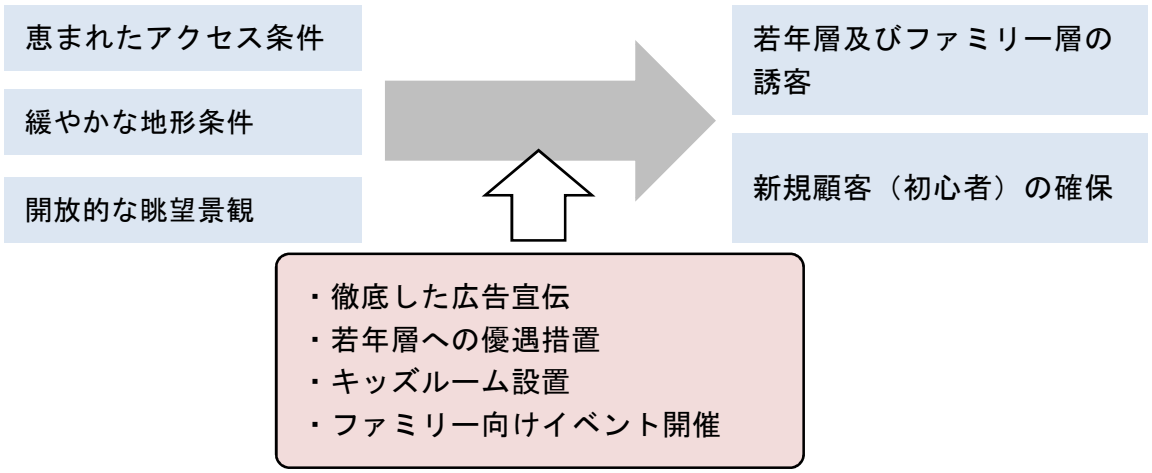


図 16　スキー場の経営方針イメージ

④ 収支予測

・類似のスキー場における来客者数から、来客者数は第 1 期（オープン 1 年目）に年間約 5 万人、第 2 期には約 5.2 万人、第 3 期には約 5.4 万人を見込んでいる（表 13）。
・スキー場経営による経常利益は約 4,000 千円～7,500 千円を見込んでおり、年間約 35,000 人の来客者が確保できれば健全な経営が成立する見込みである。

表 13　スキー場の収支予測

ステージ		第 1 期	第 2 期	第 3 期
見込み来客者数		50,000 人	52,000 人	54,000 人
収入	リフト売上高	162,500 千円	169,000 千円	175,500 千円
	その他売上高	67,500 千円	59,784 千円	62,468 千円
	計	219,600 千円	228,784 千円	237,968 千円
支出	人件費	44,000 千円	43,000 千円	43,500 千円
	販売費	16,000 千円	16,000 千円	16,000 千円
	固定資産	51,500 千円	51,500 千円	51,500 千円
	その他	64,900 千円	50,676 千円	51,552 千円
	計	176,400 千円	161,176 千円	162,552 千円
経常利益		43,200 千円	67,608 千円	75,416 千円